

令和7年度 第5回まちづくりミーティング

日時：令和8年2月4日（水）16：30～17：30

場所：福知山公立大学 4号館3階 4303セミナー室

団体：支援のバトンプロジェクト参加の皆様

○主な話し合いの内容

団体： 「次世代につなぐ支援のバトンプロジェクト」では、大学生と高校生による新たな支援をめざすとともに、大学生と高校生がつながることで地域の活性化をめざしていきたいと考え、初めの取組みとして11月に能登半島へ1泊2日で支援ボランティアに行ってきた。

～活動報告～

【意見交換】

団体：（活動に参加した感想を発表）

- ・震災後、能登半島には5回行っているがどうしても移動時間が長く、オンラインを活用するなど、支援の時間を増やすことができないか検討していきたい
- ・初めて能登半島に行ったが、リアルで現状を見ることで今後のボランティアへの意欲が一層強まった
- ・倒壊した建物を見ると悲しい気持ちになるが、整理されて建物もなくなった土地を見たり、空を見るときに建物がなく空がきれいに見えるのも非常に悲しい気持ちになる
- ・朝市での火災のことを振り返ったり、話し合っている中で「自助」の重要性を一層感じた
- ・自分の住んでいるところで建物が倒壊したことを想像すると、すごい喪失感を感じた。災害ボランティアと聞くと体力的な作業をイメージすることが多かったが、人と人のつながりを生み出す支援もあることがわかった
- ・現地で特産品やお土産などを買うことでも活性化として、支援につながると思う

市長： 阪神淡路大震災から31年経つが、この震災がボランティア元年とも言われるように、多くの方にボランティアが浸透したきっかけになった。地震や火災、水害など様々な災害の種類がある中、どの場合でも発災直後というのは現場も混乱しており、ボランティアを受け入れること自体が難しい。一方でボランティアの力は大きく、また実際に被災地に赴き、リアルな体験をすることは非常に大切なことである。

団体： 昔はテレビなどの映像で被災地の様子を見ても、自分事としてなかなかとらえられなかった。ただ自分が市内の水害で被災した経験をきっかけに自分事になり、

現在のこのような活動につながっている。このことから、実際に体験することは非常に大切なことであると私も思う。

市長 経験したことを、どのように防災に活かしていくか、災害とどうかかわっていくかは常に考えているところである。「命をつなぐ防災」というテーマがあるが、災害関連死を防いでいくためにボランティアがどう支援できるかなどつなげてほしいと思う。

団体： 輪島塗など地域の特産品の支援も大切だと思っている。地域の良さや特産品を知れることなどもボランティアに行くいいところの1つだと思っている。

市長： たしかに様々な支援の方法が考えられる。オンラインでつながれるように、という話もあったが、今後の展開も考えていたりするのか。

団体： 能登半島にも「新町」という地名があるので、福知山の新町商店街と「新町」同士でオンラインをつないだりしても面白いと考えている。

特産品の話もあったが、被災地のお店の紹介などを福知山でできないかを考えたりしている。

今回の取組みの趣旨にもあるが、大学と高校が連携することで今後の発展につながっていくと考えているので、続けていきたい。

市長： 学校側で折り合いのつかないこともあるかもしれないが、皆さんのようにアイデアを出していくことが非常に大切だし、それをみんなで話し合っていくこともすごく大切なのでぜひ続けてほしい。

行政としてもできることが限られ、災害においてはまず「自分の命を自分で守る」という自助が大切になるが、行政ができることは全力で頑張るので、何か協力してほしいことがあれば、言ってほしい。

